

取り付け業者様へのお願い  
取り付け作業終了後は、本書の回収をお願いいたします。

# 作業用連絡システム

## RP823・RP824・HX823

( 親機 ・ 回線補償器 ・ 子機 )

取り付け業者用 工事設定マニュアル

### 目次

安全上のご注意.....	表紙裏
準備.....	1
取り付け方法.....	2
取り付け場所の注意.....	2
親機のポールへの取り付け.....	2
親機の壁への取り付け.....	3
回線補償器の取り付け.....	4
回線補償器の設定.....	5
子機のモード設定スイッチの変更.....	6
子機の設定.....	7
チャンネル固定通話方式の設定.....	7
自動通話方式の設定.....	10
子機の初期状態.....	12
親機の設定.....	12

## 安全上のご注意

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



**警告**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

### ⚠ 警告

- 指定の電源電圧以外の電圧で使用および設置しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 濡れた手でケーブルを取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。
- 付属または指定のケーブル以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



- 不安定な場所や方法で取り付けしないでください。機器はしっかりと固定してください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となります。
- 振動の多い場所に取り付けしないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となります。



- 機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 付属のケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。
- ケーブルの端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。
- ケーブルの端子に水滴のついたままこの機器と接続しないでください。火災・故障の原因となります。
- ケーブルが傷んだらご使用にならないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- ケーブルは、狭いすき間を通さないでください。ケーブルが傷付き、火災・感電の原因となります。



## ⚠ 注意

- 機器が近くのテレビ、電子機器、医療機器等に影響を与えるときは、設置しないでください。
- 無線機の使用が禁止されている場所に、この機器を設置しないでください。



- 機器のアンテナ部分が誤って、目にささらないようにしてください。
- 設置の際は安全のため接続ケーブルを抜いてください。
- 近くに雷が発生したときは、機器の設置をやめてください。雷によっては、火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ケーブルの端子はしっかりとしめてください。端子がゆるんでいると、この機器の内部に水が入り火災・感電・故障の原因となることがあります。



- 機器の取り付けの際は、必ず付属のワッシャー、ナットおよびボルトを使いしっかりと固定してください。
- 取り外したときのワッシャー、ナットおよびボルトは、乳幼児の手の届かないところで保管してください。



- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。特に車中には放置しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ケーブルを熱源に近づけないでください。ケーブルの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ケーブルを抜くときは、必ずコネクタを持って抜いてください。ケーブルを引っ張るとケーブルが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。



## お 願 い

- 回線補償器RP824の設置を行うときは、RP824付属の「取り付け業者用工事設定マニュアル」に従って設置を行ってください。

## 準 備

---

●作業連絡システムを取り付ける前に以下のものを準備してください。

親機を取り付ける場合

- ・自己融着テープ ..... 1巻
- ・ビニールテープ ..... 1巻
- ・安定化電源（12V 2A以上） ..... 1台

回線補償器を取り付ける場合（数量は回線補償器1台あたりの必要数）

- ・自己融着テープ ..... 1巻
- ・ビニールテープ ..... 1巻
- ・N型コネクタ ..... 2個
- ・同軸ケーブル ..... 設置状況に応じた長さ（但し5D-2Vは50m以内）
- ・アンテナ基台 第一電波工業(株)（ダイヤモンドアンテナ）DPK-CR、CRBまたはCLB ..... 1個
- ・安定化電源（12V 2A以上） ..... 1台

取り付けを行うのが高所になる場合は、安全衛生法に従って作業を行ってください。

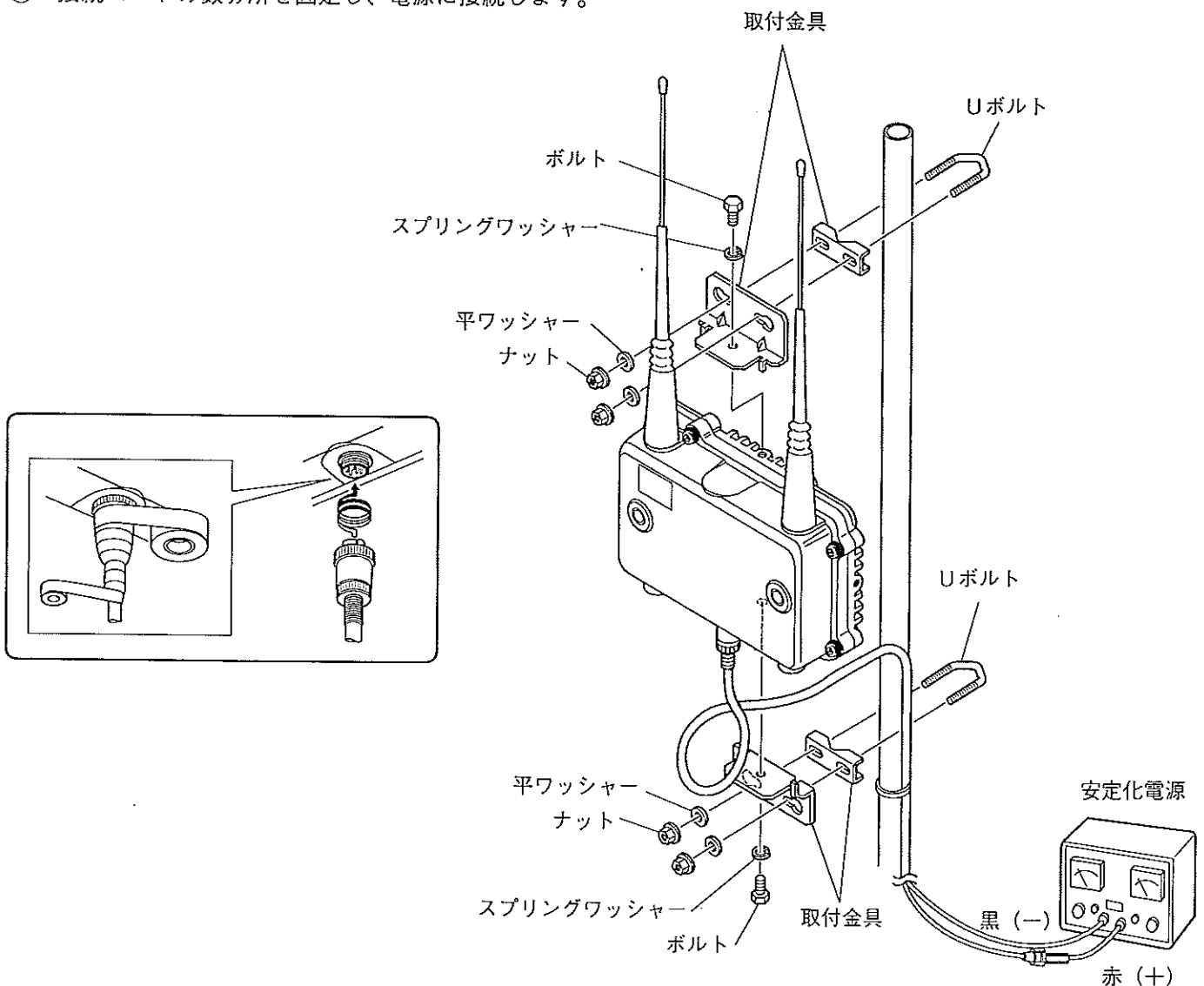
# 取り付け方法

## 取り付け場所の注意

- ① 室内では、テレビゲーム機、パソコン、ビデオ、電子レンジ、他の無線機、蛍光灯などの近くに取り付けないでください。
- ② 室内に取り付けた場合は、屋外に取り付け時より、通話範囲が狭くなる場合があります。
- ③ 屋外では、無線機のアンテナ、電線、鉄塔、鉄筋が入った壁や天井、電車の線路、その他金属やノイズを発生する場所の近くに取り付けないでください。
- ④ あらかじめお客様の希望する通話エリアを確認して、取り付けてください。また、通話チャンネルに妨害となるような電波が出ていないことを確認してください。

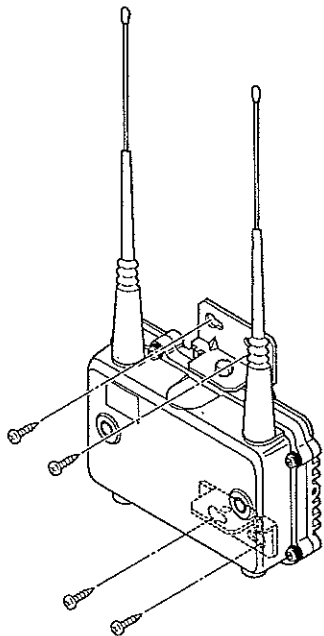
## 親機のポールへの取り付け

- ① 親機の上下2ヶ所に付属のボルトとスプリングワッシャーにて付属のブラケットを取り付けます。
- ② 付属のUボルトを①で取り付けしたブラケットに通し、付属のナットでしっかり固定します。
- ③ 接続コードのプラグを親機にしっかりネジ込みます。
- ④ 接続コードのプラグに自己融着テープを巻き、その上からビニールテープを巻きます。テープは親機の根元から巻はじめケーブル部分の約5cmまで巻きます。
- ⑤ 接続コードを輪にしてから、ポールに固定します。
- ⑥ 接続コードの数ヶ所を固定し、電源に接続します。



## 親機の壁への取り付け

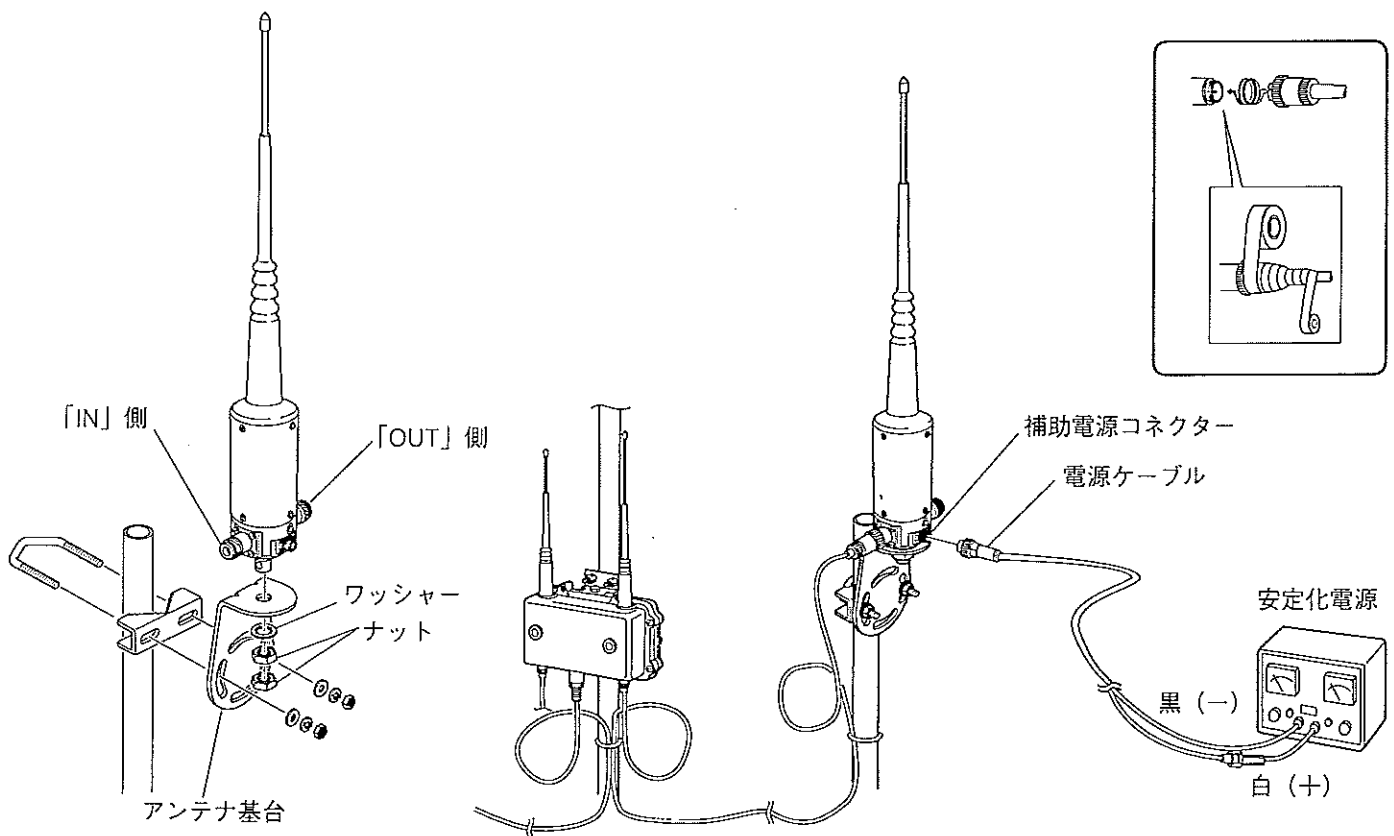
- ① 親機の上下2ヶ所に付属のボルトとスプリングワッシャーにて付属のブラケットを取り付けます。
- ② ①で取り付けしたブラケットを、付属の木ネジでしっかり固定します。



- ③ 接続コードのプラグを親機にネジ込みます。
- ④ 接続コードのプラグに自己融着テープを巻き、その上からビニールテープを巻きます。テープは親機の根元から巻はじめケーブル部分の約5 cmまで巻きます。
- ⑤ 接続コードを輪にします。
- ⑥ 接続コードの数ヶ所を固定し、電源に接続します。

## 回線補償器の取り付け

- ① 設置する状況に応じた長さの同軸ケーブルを用意します。そして、同軸ケーブルの両側にN型コネクタを取り付けます。
  - ② 回線補償器と親機を接続する前に、親機を電源からはずしてください。
  - ③ アンテナ基台の取り付け・取り外しは、アンテナ基台に付属している取扱説明書をよくお読みになって行ってください。
  - ④ 付属のワッシャーとナットでアンテナ基台に回線補償器をしっかりと固定します。
  - ⑤ 同軸ケーブルのプラグを親機の回線補償器用コネクタにネジ込みます。  
(親機に接続する回線補償器が1系統だけのときは、親機正面左側の回線補償器用コネクタを使用します。)
  - ⑥ 同軸ケーブルのもう一方のプラグを回線補償器の「IN」側に接続します。
  - ⑦ 親機側と回線補償器側の同軸ケーブルのプラグに自己融着テープを巻き、その上からビニールテープを巻きます。テープは本体の根元から巻はじめケーブル部分の約5 cmまで巻きます。
  - ⑧ 同軸ケーブルを輪にしてから、ポールに固定します。
  - ⑨ 回線補償器の補助電源コネクタのキャップを外し、付属の電源ケーブルを取り付けます。但し、回線補償器側の同軸ケーブルの電圧が7V以上ある場合は、電源ケーブルを取り付ける必要はありません。プラグ部は、⑦と同様に自己融着テープとビニールテープを巻きます。
  - ⑩ 次の回線補償器をつなぐときは、既に設置の済んでいる回線補償器の「OUT」側のキャップを外し、次に設置する回線補償器の「IN」側と同軸ケーブルで接続します。回線補償器の設置方法は上記の手順と同様に行ってください。
- ※ 1系統に接続できる回線補償器は3台までです。



## 回線補償器の設定

### ①準備

1. トルクドライバー（T10H）で回線補償器上部の4本のネジを外します。
2. アンテナとケース部分を離します。

### 注意

ケースを一度開けると、防水機能の保証が出来なくなります。ケースを開けた回線補償器は、屋内でのみ使用してください。

### ②受信アッテネーターの設定

受信の音声が歪んで聞こえるときなどに、この設定を行ってください。

1. 親機と回線補償器の距離に応じて、下表のようにスイッチ(SB02)を設定します。

距離	スイッチ1	スイッチ2	スイッチ3
15mまで	OFF	OFF	ON
25mまで	OFF	ON	ON
50mまで	ON	OFF	OFF

ここでの距離は、5D-2Vの同軸ケーブルをしたときの親機と回線補償機の間を示します。

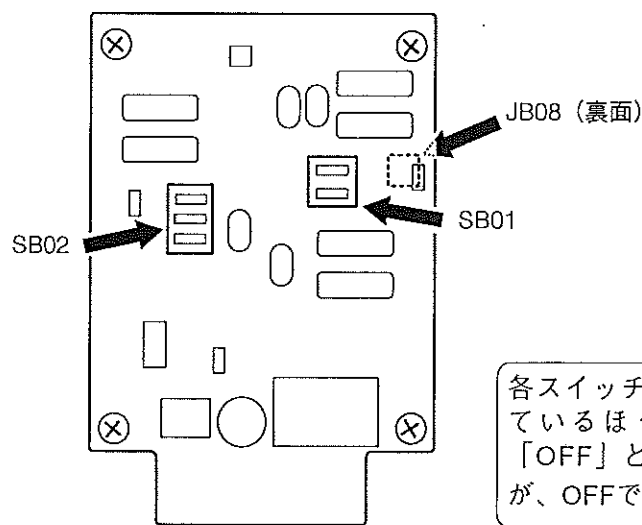
### ③アンテナ使用停止の設定

使用状況により、回線補償器のアンテナから電波が出る必要がないときに、この設定を行ってください。

1. スイッチ(SB01)の1をONにします。
2. コネクター(JB08)からケーブルを抜きます。

④設定が終了したら、ケースにケーブルをはさまないように注意しながらケースを閉めてください。

⑤手順①で外したネジを取り付けます。



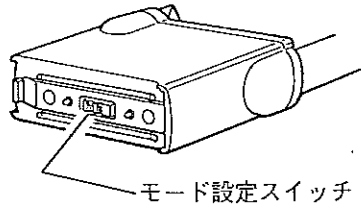
部品配置図

各スイッチは、数字が書かれているほうが、ONです。「OFF」と書かれているほうが、OFFです。

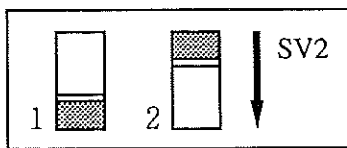


## 子機のモード設定スイッチの変更

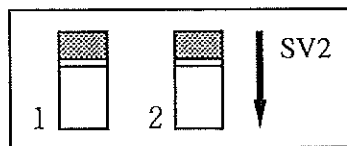
- ① 子機の電源を切り、電池ケースを外します。
- ② 子機の底面にあるモード設定スイッチを変更します。



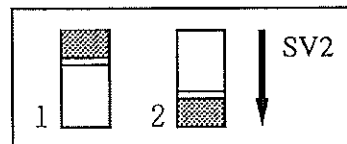
### 1. 初期状態（チャンネル固定通話方式）



### 2. CALLキーの設定変更（チャンネル固定通話方式時にCALLキーをPTTスイッチとして設定）

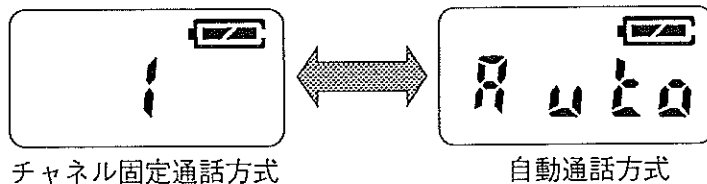


### 3. 自動通話方式の設定



スイッチ1を変更すると自動通話方式になりません。

- ③ チャンネル固定通話方式と自動通話方式の切り替えは、引き続きに次の設定を行ってください。
  1. ①キーと[MON]キーを押しながら、電源を入れます。
  2. ①キーを押します。
  3. 電源を切り、再度電源を入れます。これにより、それぞれの通話方式に切り替わります。



※自動通話方式からチャンネル固定通話方式に変更したときは、親機連続送信の設定は有りになっています。チャンネル固定通話方式に変更後、この設定を無しにする場合は、7、8ページの手順⑥、⑦をご覧になり設定無し(oF)を選んでください。

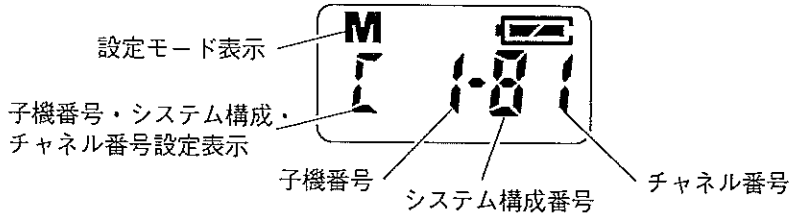
# 子機の設定

## チャンネル固定通話方式の設定

子機番号は、子機ごとに違う番号を設定してください。それ以外の設定は、必要に応じて行ってください。  
モード設定スイッチが初期状態（チャンネル固定通話方式）であることを確認してから設定を行ってください。

- ① ①キーとMONIキーを押しながら、電源を入れます。

子機番号・システム構成・チャンネル番号設定表示になります。



- ② ②キーを押し、システム構成番号とチャンネル番を設定します。

②キーを押すたびに、下表の順にシステム構成番号とチャンネル番号は変わります。希望の番号で止めてください。

チャンネル番号表示	1 2 3 4	1 2 3 4 5 6 7 8 9 A b C	1 2 3 4 5 6 7 8
システム構成番号表示	8	2	4

②キーを押し続けると、連続して番号が変わります。

システムの子機が2台のときシステム構成番号を2にします。

システムの子機が3～4台のとき、システム構成番号を4にします。

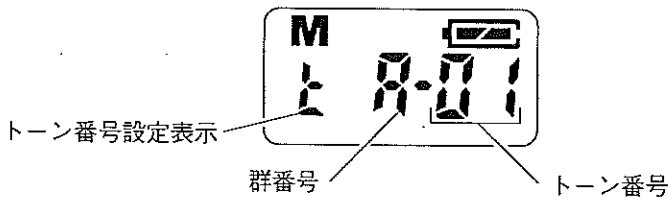
システムの子機が5～8台のとき、システム構成番号を8にします。

システム構成番号とチャンネル番号は、全ての子機で同じ設定にしてください。

- ③ ③キーを押し、子機番号を設定します。

子機番号は、子機ごとに違う番号を設定してください。

- ④ ④キーを押し、トーン番号設定表示にします。



- ⑤ ⑤キーを押し、トーン番号および群番号を設定します。

A群は、01から17まで設定できます。b群は、01から16まで設定できます。

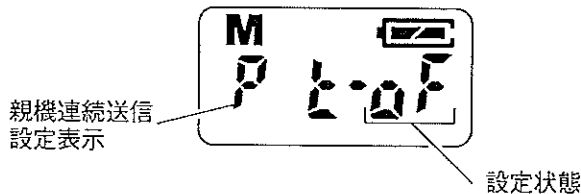
トーン番号は、⑤キーを押す度に次のように変わっていきます。

A-01, A-02, A-03, . . . , A-16, A-17, B-01, B-02, . . . , B-15, B-16, A-01, . . .

トーン番号は、全ての子機で同じ設定にしてください。

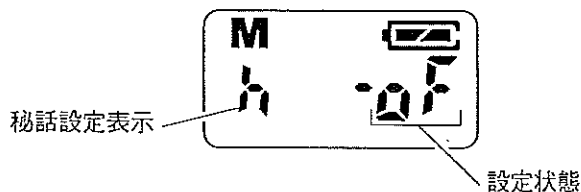
※トーン番号および群番号は、A-01～A-10またはB-01～B-09の中から設定してください。これ以外を設定すると、通話の始めが切れたり、通話の終わりにノイズが出ることがあります。

- ⑥ ⑥キーを押し、親機連続送信設定表示にします。



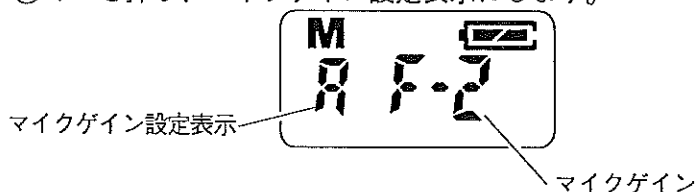
- ⑦ ⊕キーまたは⊖キーを押し、設定の有り・無しを選択します。  
 設定有りのときは、onにします。設定無しのときは、oFにします。(通常の設定は、設定無し「oF」です。)  
 親機連続送信設定は、全ての子機で同じ設定にしてください。  
 ※設定有りの場合は、通話の始めが切れることは低減されます。しかし、子機の電池の持ちが設定無しと比較して約65%になります。  
 自動通話方式からチャンネル固定通話方式に変更したときは、この設定は有り「on」になっています。必要に応じて設定を変更してください。

- ⑧ ⊕キーを押し、秘話設定表示にします。



- ⑨ ⊕キーまたは⊖キーを押し、設定の有り・無しを選択します。  
 設定有りのときは、onにします。設定無しのときは、oFにします。(通常の設定は、設定無し「oF」です。)  
 秘話設定は、全ての子機で同じ設定にしてください。

- ⑩ ⊕キーを押し、マイクゲイン設定表示にします。

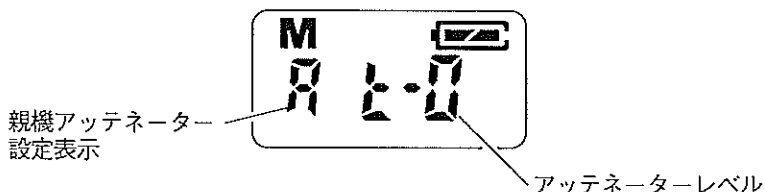


- ⑪ ⊕キーを押し、マイクゲインを設定します。(通常の設定は、2です。)  
 マイクゲインは、⊕キーを押す度に1、2、3と変わっていきます。1は、-6dBを表わします。2は、0dBを表わします。3は、+6dBを表わします。  
 ※オプションのマイクCMP815、CMP823、CHP820をお使いになるときは、マイクゲイン設定を以下のようにすることをお奨めします。

CMP815: 1  
 CMP823: 2  
 CHP820: 3

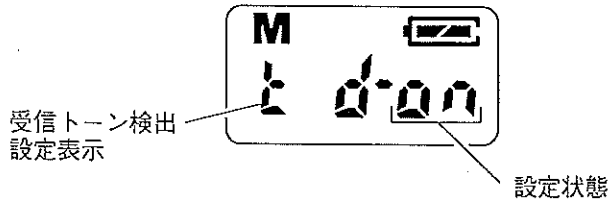
上記の設定は、推奨値です。マイクゲインは周囲の環境に応じて設定してください。

- ⑫ ⊕キーを押し、親機アッテネーター（受信感度）設定表示にします。



- ⑬ ⊕キーを押し、アッテネーター（受信感度）を設定します。(通常の設定は、0です。)  
 アッテネーターは、⊕キーを押す度に0、1、2、3と変わっていきます。0は、0dBを表わします。1は、-6dBを表わします。2、3は、使用しません。  
 ※親機と子機の距離が常に10m程度で使われる場合は、設定を1にしてください。混信等に強くなります。

- ⑭ ⑤キーを押し、受信トーン検出設定表示にします。



- ⑮ ⊕キーまたは⊖キーを押し、設定の有り・無しを選択します。

受信トーンの検出を行う場合は、onにします。受信トーンの検出を行わない場合は、oFにします。（通常の設定は、設定有り「on」です。）

※親機にRP823を使用する場合は、onにしてください。親機にトーンを使用していない機器を使用する場合はoFにしてください。

- ⑯ ⑤キーを押します。表示は子機番号・システム構成・チャンネル番号設定表示に戻ります。

- ⑰ 設定を変更する必要がないときは、電源を切ります。設定の変更をするときは、⑤キーを押し、変更を行う設定に進みます。

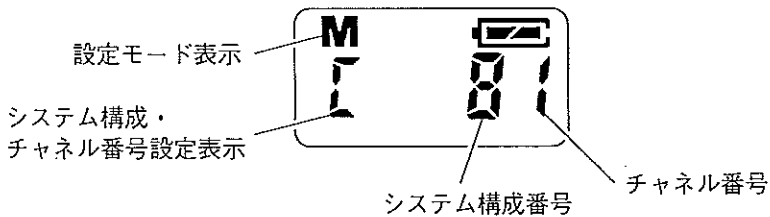
アドバイス：設定を途中で終了するときは、その時点で⑤キーを押し、その後で電源を切ってください。

## 自動通話方式の設定

モード設定スイッチが自動通話方式であることを確認してから設定を行ってください。

- ① ⑥キーとMONIキーを押しながら、電源を入れます。

システム構成・チャンネル番号設定表示になります。



- ② ①キーを押し、システム構成番号とチャンネル番を設定します。

①キーを押すたびに、下表の順にシステム構成番号とチャンネル番号は変わります。希望の番号で止めてください。

チャンネル番号表示	1 2 3 4	1 2 3 4 5 6 7 8 9 A b C	1 2 3 4 5 6 7 8
システム構成番号表示	8	2	4

①キーを押し続けると、連続して番号が変わります。

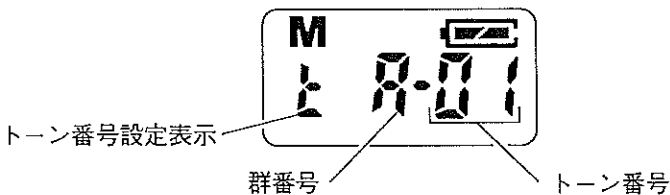
システムの子機が2台のときシステム構成番号を2にします。

同時通話可能な子機が2～3台のとき、システム構成番号を4にします。

同時通話可能な子機が5～7台のとき、システム構成番号を8にします。

システム構成番号とチャンネル番号は、全ての子機で同じ設定にしてください。

- ③ ⑥キーを押し、トーン番号設定表示にします。



- ④ ④キーを押し、トーン番号および群番号を設定します。

A群は、01から17まで設定できます。b群は、01から16まで設定できます。

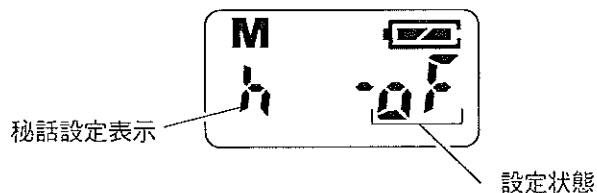
トーン番号は、④キーを押す度に次のように変わっていきます。

A-01, A-02, A-03, . . . , A-16, A-17, B-01, B-02, . . . , B-15, B-16, A-01, . . .

トーン番号は、全ての子機で同じ設定にしてください。

※トーン番号および群番号は、A-01～A-10またはB-01～B-09の中から設定してください。これ以外を設定すると、通話の始めが切れたり、通話の終わりにノイズが出ることがあります。

- ⑤ ⑥キーを押し、秘話設定表示にします。

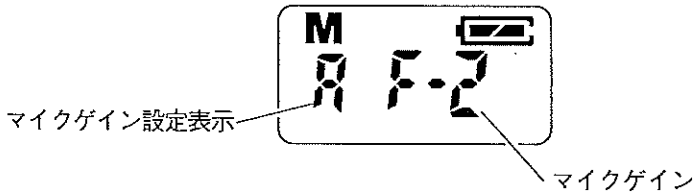


- ⑥ ④キーまたは①キーを押し、設定の有り・無しを選択します。

設定有りのときは、onにします。設定無しの場合は、oFにします。(通常の設定は、設定無し「oF」です。)

秘話設定は、全ての子機で同じ設定にしてください。

- ⑦ ⑥キーを押し、マイクゲイン設定表示にします。



- ⑧ ④キーを押し、マイクゲインを設定します。（通常の設定は、2です。）

マイクゲインは、④キーを押す度に1、2、3と変わっていきます。1は、-6dBを表わします。2は、0dBを表わします。3は、+6dBを表わします。

※オプションのマイクCMP815、CMP823、CHP820をお使いになるときは、マイクゲイン設定を以下のようにすることをお奨めします。

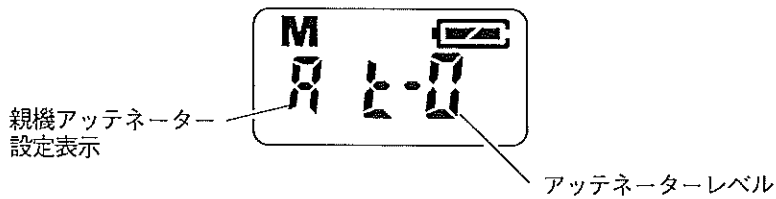
CMP815: 1

CMP823: 2

CHP820: 3

上記の設定は、推奨値です。マイクゲインは周囲の環境に応じて設定してください。

- ⑨ ⑥キーを押し、親機アッテネーター（受信感度）設定表示にします。



- ⑩ ④キーを押し、アッテネーター（受信感度）を設定します。

アッテネーターは、④キーを押す度に0、1、2、3と変わっていきます。0は、0dBを表わします。1は、-6dBを表わします。2、3は、使用しません。

※親機と子機の距離が常に10m程度で使われる場合は、設定を1にしてください。混信等に強くなります。

- ⑪ ⑥キーを押します。表示はシステム構成・チャンネル番号設定表示に戻ります。

- ⑫ 設定を変更する必要がないときは、電源を切ります。設定の変更をするときは、⑥キーを押し、変更を行う設定に進みます。

アドバイス：設定を途中で終了するときは、その時点で⑥キーを押し、その後で電源を切ってください。

## 子機の初期状態

子機の初期状態（工場出荷状態）は、次のようになっています。

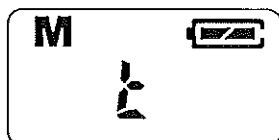
設定項目	設定状態
通話方式	チャンネル固定通話方式
システム構成番号	8
子機番号	1
トーン番号	A-01
親機連続送信設定	oF
秘話設定	oF
マイクゲイン設定	2
親機アッテネーター設定	0
受信トーン検出	on

チャンネル固定通話方式では、子機番号は各子機ごとに変更してください。両通話とも、その他は必要に応じて変更してください。

## 親機の設定

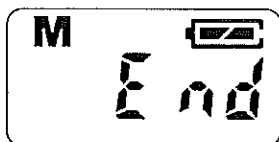
- ① 親機の電源を切ります。
- ② 設定の済んだ子機を1台選びます。
- ③ 子機の[F]キーと[MONI]キーを押しながら、電源を入れます。
- ④ 親機の電源を入れます。
- ⑤ 親機の電源が入ってから親機のインジケータが点灯している間に、子機の[CALL]キーを押しながら、[F]キーを押します。

設定内容を子機から親機に送ります。

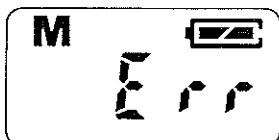


送信中表示

- ⑥ 子機にEndが表示されると、親機の設定は終了です。



Errが表示されたときは、設定は出来ませんでした。再度、親機の電源を切り、手順の④、⑤を行ってください。



- ⑦ 必要に応じて、子機、親機の電源を切ります。

### アドバイス

親機の設定を行う際は、親機と子機の距離を3m以上離すか、子機のアンテナを外して行ってください。

## 日本マランツ株式会社

本 社 〒228 神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号  
営業本部 〒150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目11番9号

お問い合わせは、  
最寄りの日本マランツ株式会社、各営業所、サービスセンター  
で承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。





作業用連絡システム基地局

---

# CX912

---

取扱説明書

---

このたびは、作業用連絡システム基地局  
CX912をお買い上げいただきまして誠にあ  
りがとうございます。

この製品につきまして、万一ご不審な点  
がありましたら、なるべくお早めにお買い上  
げいただいた販売店あるいは(株)スタン  
ダードの営業所、サービスセンターへお申  
し付けください。

---

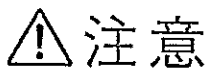
# ご使用のまえに

## 安全上のご注意

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

## ⚠ 警告

●濡れた手でケーブルを取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。



●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



●万一、落としたり、破損した場合は、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



●分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



## ⚠ 注意

●旅行などで長時間ご使用にならないときは、電源から外してください。



●近くのテレビ、電子機器、医療機器等に影響を与えるときは、ご使用にならないでください。



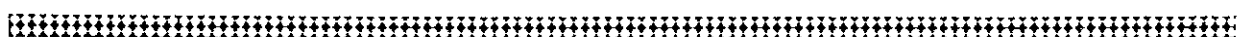
●お手入れする際は安全のため電源を切ってください。



●湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。



# 目次



ご使用前の注意 .....	2
本機の特長 .....	2
付属品を確認してください .....	2
各部の名称と動作 .....	3
設置および接続方法 .....	6
使用方法 .....	9
定格 .....	11
保証・アフターサービスについて .....	12

## ご使用前の注意

- 本機は、防滴構造になっていません。水がかかる場所や湿度の高い場所ではご使用にならないでください。
- ほこりが多い場所ではご使用にならないでください。
- 本機と本機に接続するスピーカーの距離が近いとハウリングを起こすことがあります。本機とスピーカーの距離は充分にお取りください。

## 本機の特長

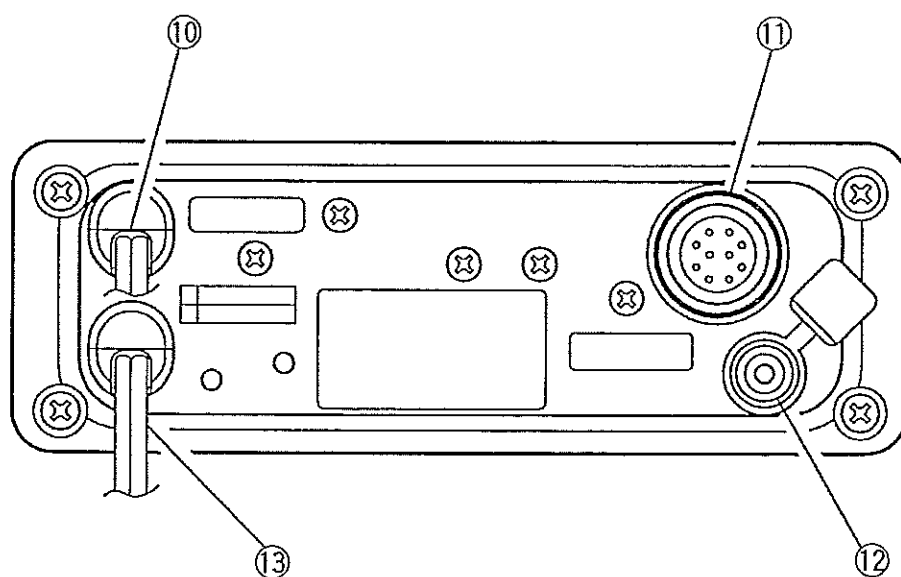
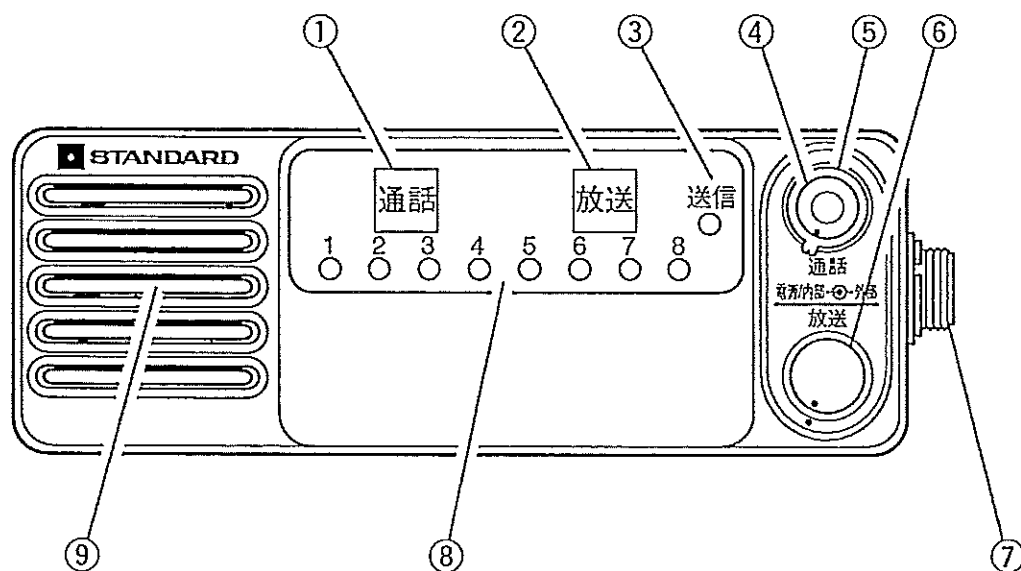
- 本機は、作業連絡システムの親機（RP823）に接続し、通話を行います。
- 本機には、「通話」と「放送」の機能があります。
- 「通話」とは、本機に接続されたマイクから、親機を通して、子機（HX823）へ音声を送ることです。
- 「放送」とは、本機に接続されたマイクから、放送用のスピーカーを通して、音声を鳴らすことです。
- 本機は、機能を「通話」のみ、「通話と放送」というように使い分けができます。
- 子機からの通話および子機同士の通話は、本機のスピーカーで聞くことができます。
- 子機および親機の使用状態を表示により知ることができます。

## 付属品を確認してください

- ① 取扱説明書
- ② 営業所一覧
- ③ 保証書
- ④ 親機接続用ケーブル（10芯）30m
- ⑤ 予備ヒューズ（2A）
- ⑥ ブラケット
- ⑦ DCケーブル

# 各部の名称と動作

- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| ①電源／通話表示            | ⑧受信表示            |
| ②放送表示               | ⑨内部スピーカー         |
| ③送信表示               | ⑩電源ケーブル          |
| ④電源スイッチ             | ⑪親機接続用端子         |
| ／通話用内部スピーカーボリュームつまみ | ⑫通話用外部スピーカー接続端子  |
| ⑤通話用外部スピーカーボリュームつまみ | ⑬放送用スピーカー接続端子（赤） |
| ⑥放送用ボリュームつまみ        | ／ライン入力端子（白）      |
| ⑦マイク用端子             |                  |



---

### ①電源／通話表示

本機の電源が入り、「通話」のときに点灯します。

### ②放送表示

本機の「通話」に「放送」が加わるときに、点灯します。

### ③送信表示

親機（RP823）が送信状態のときに点灯します。

### ④電源スイッチ／通話用内部スピーカーボリュームつまみ

内側のつまみを反時計方向に回すと、内部スピーカーの通話の音量が小さくなりなります。反時計方向に回し切ると、電源が切れます。（通話の音声は、内部スピーカーから出ます。）このつまみを時計方向に回すと、電源が入った後通話になり、さらに回すと通話の音量が大きくなりなります。

### ⑤通話用外部スピーカーボリュームつまみ

外側のつまみを反時計方向に回すと、外部スピーカーの通話の音量が小さくなりなります。このつまみを時計方向に回すと、通話の音量が大きくなりなります。

### ⑥放送用ボリュームつまみ

このつまみを反時計方向に回すと、放送の音量が小さくなりなります。反時計方向に回し切ると放送が切れます。このつまみを時計方向に回すと放送になり、さらに回すと放送の音量が大きくなりなります。

### ⑦マイク用端子

オプションのマイクCMP825またはCMP826を接続します。これ以外のマイクは接続しないでください。

### ⑧受信表示

出荷時（チャンネル固定通話方式）は、使用している子機の番号を表示します。自動通話方式の設定では、親機内で使用されている受信ユニット番号を表示します。

### ⑨内部スピーカー

通話の音声は、このスピーカーから出ます。

---

## ⑩電源ケーブル

このケーブルに直流安定化電源を次の様な条件で接続します。

電圧：直流13.8V～24V、電流：2A以上

指定以外の電圧、電流値では使用しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

付属の電源ケーブル以外は使用しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

傷ついた電源ケーブルは使用しないでください。また、電源ケーブルを無理に曲げたままの状態でご使用にならないでください。火災・感電・故障の原因になります。

ヒューズを交換するときは、2Aのヒューズとお取り替えください。これ以外のヒューズは使用しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

## ⑪親機接続用端子

親機接続専用ケーブルをこの端子に接続します。

この端子はショートさせないでください。火災・感電・故障の原因になります。

親機接続専用ケーブル以外は使用しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

## ⑫通話用外部スピーカー接続端子

オプションのスピーカーを接続し、通話の音声をこのスピーカーから出します。接続できるスピーカーは次の条件のものです。

スピーカーインピーダンス：8Ω、最大定格入力5W以上

## ⑬放送用スピーカー接続端子（端子：赤）

オプションのスピーカーを接続し、放送の音声をこのスピーカーから出します。接続できるスピーカーは次の条件のものです。

スピーカーインピーダンス：4Ωまたは8Ω、最大定格入力5W以上

## ライン入力端子（端子：白）

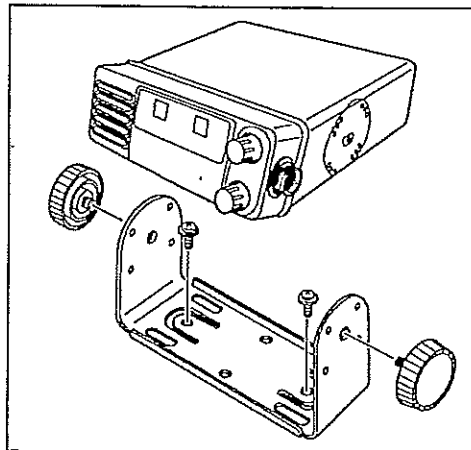
外部からの音声をこの端子へ入力し、親機を通して子機へ音声を送ることができます。音量調整は、本機内部のボリュームで行います。



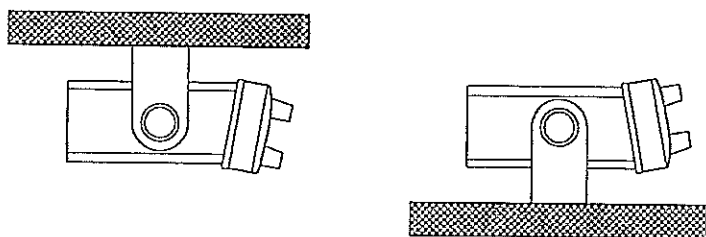
# 設置および接続方法

## 設置およびアングルの変更

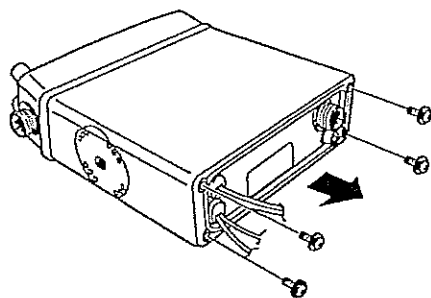
付属のブラケットとビスを使って本機を設置するときは、右の図を参照してください。本機に直射日光が当たると、表示が見えにくくなる場合があります。なるべく直射日光のあたらない場所を選んで本機を設置してください。



本機のアングルを下図のように変更することができます。本機を上方に設置するときは、アングルを変更してお使い下さい。



1. 後面のビスを外す
2. ケースを外す



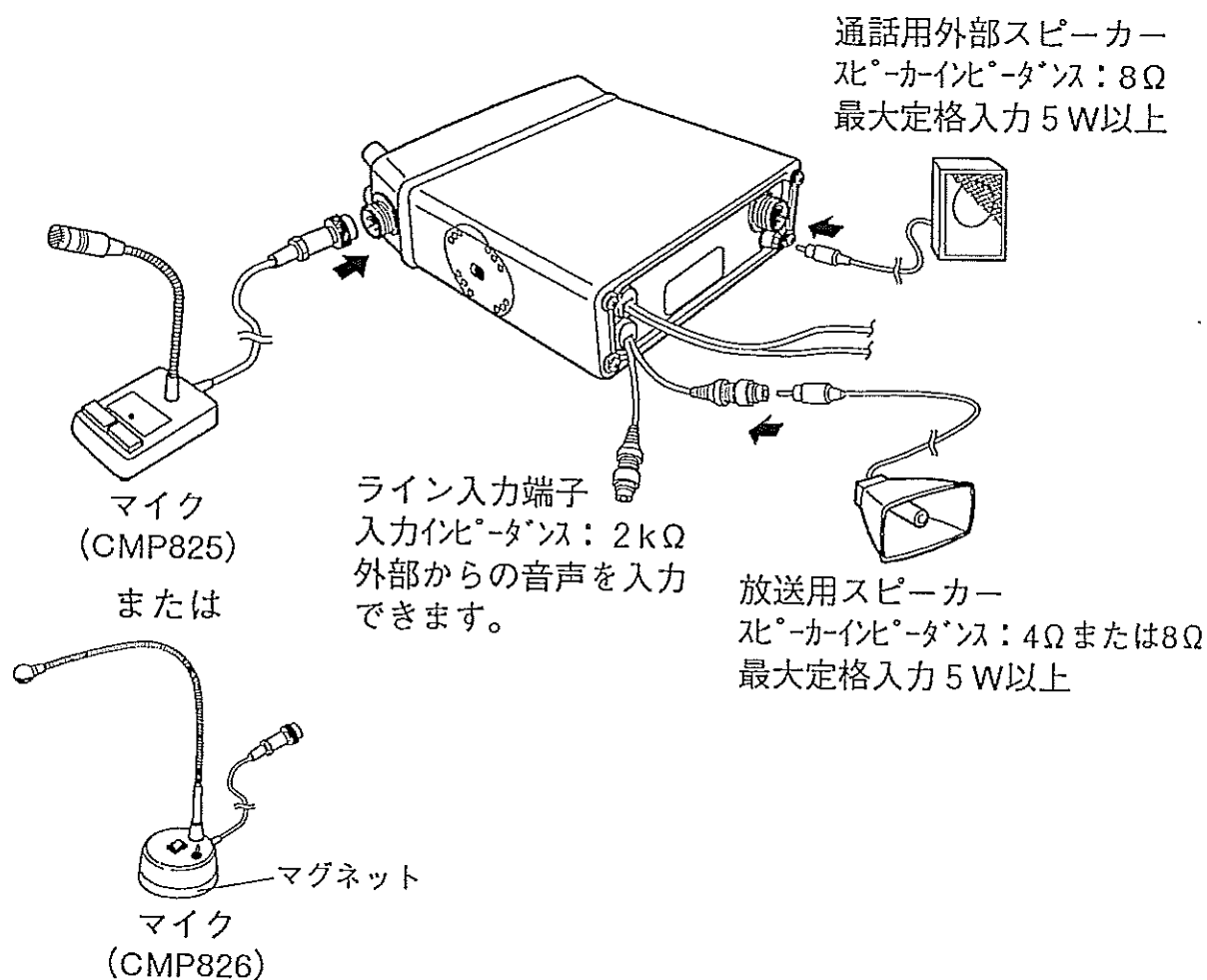
3. ケースの上下を変えて、ケースを取り付ける  
ケースを取り付けるときは、ケーブルをはさまないように注意してください。
4. 後面にビスを付ける

## スピーカーおよびマイクの接続

接続する機器の定格をよく確認してから接続してください。

放送および通話用スピーカーのケーブル長は、3mから10mにしてください。  
10m以上の場合は、出力が不足します。

マイク（CMP825またはCMP826）とスピーカーの距離が近いとハウリングを起こします。マイクとスピーカーの距離は充分お取りください。

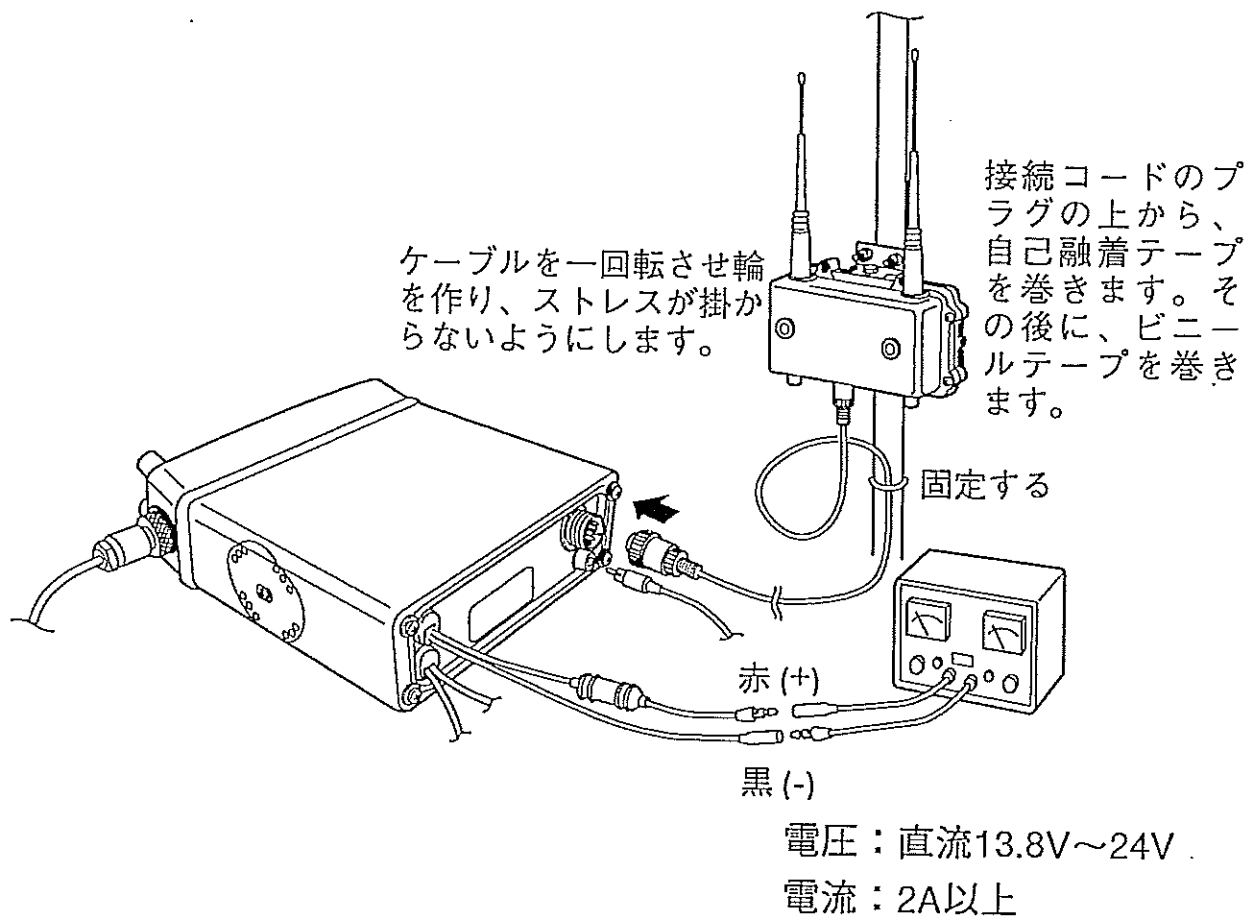


### アドバイス

- CMP825は、事務所など静かな場所で使用する場合に適しています。
- CMP826は、クレーンなど騒音の大きい場所で使用する場合に適しています。

## 電源および親機の接続

電源を接続するときは、安全のため、安定化電源の電源は切ってください。  
安定化電源に本機（CX912）を接続するときは、極性をよく確かめてから行ってください。



### アドバイス

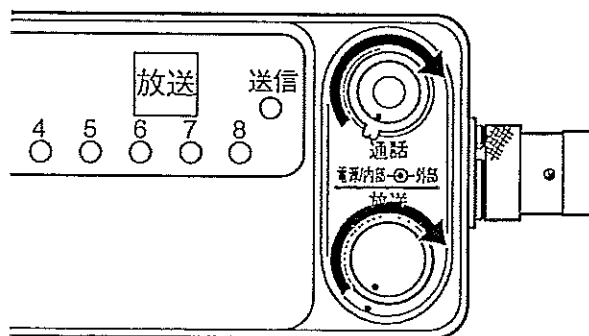
- 親機の電源を本機から取る場合は、安定化電源（直流13.8V～24V）または24Vのバッテリーに接続してください。

# 使用方法

①安定化電源の電源を入れます。

②電源ツマミを時計方向に回し、電源を入れます。電源が入ると、通話表示が点灯します。なお、電源投入後10秒間は親機（RP823）が初期設定を行っているため使用できません。

③通話を行うときは、通話用のボリュームツマミを時計方向に回し、適切な音量にします。  
通話と放送を行うときは、通話および放送表示を点灯させ、通話用ボリュームツマミと放送用ボリュームツマミを回し、適切な音量に調整します。



④ ● CMP825の場合

マイクの **PTT** を押しながら、マイクに向かって話します。

マイクの **LOCK** を押すと、**PTT** を押し続けた状態になります。これを解除するには、もう一度 **LOCK** を押してください。

**PTT** または **LOCK** が押されたときは、本機の送信表示が点灯します。

マイクと口元の距離は約10cm程度が適当です。

● CMP826の場合

**PTT** をON側にしてから、マイクに向かって話します。

**PTT** がONのときは、本機の送信表示が点灯します。

マイクと口元の距離は約10cm程度が適当です。

Hi/Lowスイッチで、マイクの感度を切り換えることができます。

Hi ……通常

Low …… - 10dB (Hiよりも -10dB感度が低くなります。)



④放送を終えるときには、放送用ボリュームつまみを反時計方向に回し切り、放送表示を消灯させます。

通話を終えるときには、通話用ボリュームつまみを反時計方向に回し切り、通話表示を消灯させます。（同時に、本機および親機の電源が切れます。）

⑤安定化電源の電源を切ります。

#### アドバイス

- 安定化電源の電源を入れるときに、通話または放送用ボリュームつまみが時計方向に回されていると、「ザー」という音が数秒間出ることがあります。
- 親機（RP823）が連続送信モードになっているときは、本機の送信表示は点灯したままです。
- 本機を親機に接続せずに、本機の電源を入れると、受信表示が不特定に点灯することがあります。また、親機に接続されていないときは、放送だけが機能します。
- 親機の電源は、本機から供給しています。従って、親機のみを使用し、本機を使用しないときでも、本機の電源つまみを回し、通話表示を点灯させてください。

# 定格

---

## 一般仕様

- 外部スピーカー出力 ..... 1 W以上
- 放送スピーカー出力 ..... 1 W以上
- 定格電圧..... 直流 13.8 V~24.0 V
- 寸法 ..... 幅152 mm 高さ54 mm 奥行き155mm  
(突起部含まず)
- 質量 ..... 約 800 g

## 保証・アフターサービスについて

- この商品には、保証書を添付しています。保証書は、「お買い上げ販売店印・保証期間」をご確認のうえ、お受け取りください。
- 保証書は、よくお読みのうえ大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げの日より一年間です。正常なご使用で、この期間内に故障したときは、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの営業所で保証記載事項に基づき「無料修理」いたします。
- 保証期間経過後の修理は、修理により機能が維持できる場合、ご要望により有償修理いたします。
- 補修用部品の詳細・ご転居等によるアフターサービスについての不明点は、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードのサービスセンター、営業所にご遠慮なくご相談ください。

# 株式会社スタンダード

〒153-8645 東京都目黒区中目黒4丁目8番8号



この取扱説明書は、エコマーク認定の再生紙を使用しています。